



仙台三高

仙台三高PTA会報



●●目次●●

- ごあいさつ……………P 2
- PTA各研修会報告……………P 3
- 三高あれこれ……………P 3
- ありがとう三高！……………P 4～5
- 前期体育大会の様子……………P 6
- 後期体育大会の様子……………P 6
- 三高祭の様子……………P 7
- 校外研修+修学旅行……………P 7
- 三学年より……………P 8

他

編集発行
宮城県仙台第三高等学校PTA事務局
〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷1丁目19番
TEL 022 (251) 1246 FAX 022 (251) 1247
印刷 創文印刷出版株式会社
題字 菊田奈穂 (48回生)

PTA会報発行に寄せて



PTA会長
教育振興会長
浅野 純恵

ご卒業を迎えられた第五十二回生の保護者の皆様には、お子様が立派に成長され、今日の日を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

また、本日に至るまで、生徒たちを熱心にご指導いただき、保護者に対しても真摯な態度で接していただきました全教職員の皆様にも深く感謝申し上げます。

三年前の春、まだあどけなさを残しつつ、緊張の面持ちでありながら、希望に満ちた表情で仙台三高の門をくぐった子どもたちも、見違えるように逞しさを増し、むしろ頼もしいとも言えるほどまで成長してくれました。これはひとえに、一生懸命に「文武両道」の実践に励み、その中で挑戦と挫折を経験し、そこから得られた貴重な「答え」に裏打ちされているからではないかと思えます。

一人一人がその「答え」から導き出した未来へ向かって、歩んでいくことができるでしょう。そして私たち保護者も、たくさんの方の足跡を残しながら歩む子どもと共に、迷い悩み励ましながら（時には励まされ）歩んできた三年間だったと思います。私たちが子どもたちと相対するとき、はたして、悩んでできる「横じわ」をどれだけ向けてあげることが出来たのか、今となつては自問自答しています。しかし、私たちも子どもたちを懸命に育て、彼ら

の足跡を残す手助けを幾度となくしてきたことに違いはないと確信しています。この三年間で親として、大人としても成長出来たのではないかと感じています。今、まさに羽ばたこうとする子どもたちの人生は、これからが本番です。時に、逃げたくなくなるような困難にぶつかることもあるでしょう。そんな時には、今日一緒に未来に向かって門を後にする「仙台三高」の皆が、それぞれの場で頑張っていることに思いを馳せ、挫けず、諦めず、何度でもチャレンジし続けていってほしいと思います。

心の持ち方ひとつで、これからの人生は変わっていきます。気持（信念）を強く持ちどんな時も視線を上げ、それぞれの夢と目標に向かつて羽ばたき続けられ、必ずや道は拓けるものと信じておられます。この三年間で培った経験と友情を糧に、たくさんの方の教え導いてくださった教職員の皆さま、陰ながら支えていただいた地域の方々、そして家族への感謝の念を胸に、次なる階段を一步一歩踏みしめていってほしいものです。

最後にになりましたが、保護者の皆様には日頃よりPTA活動にご理解と多大なるご協力を賜り、心より感謝申し上げます。この三年間で結ばれた「絆」はこの先も続いていくものと思います。引き続き、なお一層のご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

第五十二回生の皆さん、ご卒業までにおめでとうございました。そして、今日までお子様の成長を見守って来られた保護者の皆様にお慶びとお祝いを申し上げますとともに、これまで三年間本校の教育活動に對しまして深いご理解とご協力を頂戴しましたことに心から感謝を申し上げます。

第五十二回生の卒業を祝して



校長
阿部 恒幸

研究の成果を堂々と説明する姿に驚きを感じました。六月には高校総体がありました。日々の練習時間は決して長くないにもかかわらず、多くの部が勝ち進み東北大会・全国大会に駒を進める姿に高いレベルの真の文武両道を見ました。七月の前期体育大会では、三年生だけに許された海外サッカーチームのユニフォームを着て誇らしげに歩く姿と全八種目中七種目で三年生が優勝し、総合も第一位から第三位までを独占するという圧倒的な強さが印象に残りました。八月に入ると、七月のはしゃぎ振りが嘘のように模擬試験や課外講習に目の色を変えて取り組む姿に頼もしさが感じられるようになりまし。九月の三高祭と十月の後期体育大会では、受験砂漠の中のアシスをはち切ればかりに楽しむ皆さんが愛おしく感じられました。十一月にはサイエンスフェスタで来場者に三高の研究水準の高さを再び見せつけてくれました。十二月に入ると、その顔つきが一段と凛々しさを増し休日も学校で黙々と受験勉強に励む皆さんに心の中でエールを送らずにはい

られませんでした。一月のセンター試験に臨む表情は自信に満ちた爽やかなものさえ感じさせました。そして、二月に入ってもなお真摯に努力する姿はチーム仙台三高の底力を見せつけています。

さて、江戸初期の剣豪、宮本武蔵は、「千日の稽古を鍛とし万日の稽古を錬とす」という言葉を残しているそうです。意味は、「二つの技を完全に自分のものにするには、ひたすら毎日繰り返し稽古に励むしか道はないということ」で、「鍛錬」という言葉の語源と言われています。千日と言えは約三年間、高校生活の期間とほぼ一緒です。また、「石の上にも三年」ということわざもあります。最初の三年間が勝負です。次のステップに行っても、まずは三年、一心不乱に目の前のことに打ち込むことです。そうすれば、そういう人だからこそ掴めるものが見つかるとし、そういう人だからこそ持てるプライドが芽生えてくるはずですよ。

世の中は、ますます変化が大きく、そして変化のスピードも速くなっています。皆さんが、それぞれの道で大活躍され、母校の名をさらに高めてくれることを期待して贈る言葉とします。

私、皆さんが三年生になってからの付き合いでしたが、五十二回生のポテンシャルの高さを十分感じることが出来ました。赴任して早々の四月の歌唱指導では、わずか七人の応援団幹部及び有志のかけ声に新入生だけでなく私まで緊張し、初めの二、三日は駐車場から玄関までの足取りが自然と速くなりました。五月の理数科の日には、台湾や校外からの来場者相手に

東北地区高等学校PTA仙台大会報告

1学年委員長 森 めぐみ

平成28年7月7日(木)、8日(金)の2日間、第65回東北地区高等学校PTA連合会仙台大会が仙台市内の2箇所を会場として開催されました。

7日は、「被災地は今」と題して5年経過した被災地を巡る研修視察ツアーと、その夜は江陽グランドホテルにおいて情報交換会が行われました。残念ながら私は、7日の研修視察と情報交換会には参加することができませんでしたが、参加された方々が、今の宮城県復興の様子を見てどんな事を感じられたのか、情報交換会では他の地域の被災地の現状や取り組みなどを伺ったり、その他PTA活動についてお聞きし、PTAの一員として持つべき心構え等を学ぶチャンス逃した事は大変残念でした。

翌8日の本大会は、仙台サンプラザを会場として、高橋仁教育長を始めとする多くの来賓の皆様をお迎えして開催されました。基調講演では、宮城教育大学の田端健人教授により「地方創世の主役となる子ども達を守り育てるために」と題して、東日本大震災の被害や学校災害を教訓とする取り組みなどの紹介をしていただきました。田端教授は講話の中で、こども達は地方創世のかけがえのない主役で、大人はその子ども達を守り育てる必要があります。そして全ての世代がお互いを尊重し、それぞれの立場で活躍することの大切さを強く語られました。この事は、最近起こる自然災害、様々な凶悪犯罪に対しても同じ事が言えると思います。

研究協議では、「子ども達の夢を応援するPTA活動」について各県の取り組みが紹介されました。どの内容に対しても活発な意見交換がなされていました。その様子を拝見し、各校PTAが連携していくことの大切さを学びました。



全国P連千葉大会に参加して

PTA副会長 加藤 智子

平成28年度全国高等学校PTA連合会大会が8月25日、26日の二日間に渡り千葉県幕張メッセにて開催されました。

今回のテーマは「再発見！愛」今こそ信じよう愛の絆です。開会式では、千葉県知事、森田健作氏のご挨拶があり「人は必要とされて生まれてくるのです。元気がいい事、スポーツが出来る事、勉強が出来る事、それぞれの個性を生かし伸ばしていくのが千葉県なのです。」という熱いお話でした。

そして特に印象的だった講演が、千葉敬愛短期大学学長、明石要一氏の「高校生の自立を支援するPTA活動の在り方」というテーマでした。

現代の親のかかわりの変化として「ままごと」が変化してきた事、夫婦共働き家庭が多い事、お料理をするお母さんのシーンがままごとから消え配膳遊びが主流になってきている事、地域の繋がりが少なくなり地域対抗リレーが消えつつある事、大人化したスケジュールがゆえに忙しい高校生が増え、特に男子は元気がなくなっている、対策としては女子が男子に役目を与え褒めることで学校行事等のイベントで輝かしい成果が出た実例がある事などをユーモアたっぷりにお話いただきました。大人の目々の暮らしもダイレクトに子供に伝わっていく事を教えられ、もっと自分自身もしっかり親としての姿を見せなければと反省しました。

又「晩酌文化の復活を」については、親が晩酌しながらの会話の中で、繰り返し子供に話しかけても子供はそれを受け流す練習となり将来役立つという楽しい内容でした。

千葉大会では「繋がり」の重要性を考えさせられました。今後のPTAの活動にも、ぜひ活かしていきたいと思います。



PTA全体研修会「進学マナー」

第7学年委員長 名取 直保美

今年度のPTA全体研修会は、ファイナンシャルプランナーの首藤寛之先生をお招きして「進学マナー～今から始める教育準備～」という表題で、進学のために必要な資金についての講義をして頂きました。

首藤先生は石巻市のご出身で、ご自身が体験された事を織り交ぜながら、進学に必要な資金や、どうやって準備していくかを、私達に分かりやすいようにお話下さいました。

まずは「大学に合格してから卒業するまで、いくらかかるとお思いますか？」と首藤先生から質問があり、参加された父母、先生方は頭をフル回転させて計算しました。首藤先生の答えに近い方、はるか遠い方それぞれでしたが、一人の子どもを幼稚園から私大を卒業させるまで一千万円の資金がかかるそうです。そう簡単に出せる金額ではなく、これが県外であったり、工学部や医学部などではもっとかかってくる事が分かったと、会場全体からため息が聞こえてきました。しかし、首藤先生はニコニコとお話を続けます。「大丈夫です、これから私の話す事を、よく聞いて下さい！」と私達のため息が安堵に変わるようなポイントを一つずつ教えて下さいました。

進学資金の確保には、卒業までの明確な金額と、納付する期日を知る事、資金確保の手段や戦略を立てる事が必要だそうです。

そして一番大切なポイントは、よく子供と話をすること、子供が本当にやりたい事をよく聞いてほしいとのことでした。更に子供にはきちんと大学費用を知らせる事も必要だそうです。

子供の可能性を信じ、私達親はしっかり子供と向き合うことが大切です。今回、進学マナーを計画的に準備していける術を学び、大変有意義な時間を過ごせました。



宮城県高P連仙塩支部研修会報告

第3学年副委員長 進藤 寿美

11月11日(金)、仙台福祉プラザにて、平成28年度宮城県高等学校PTA連合会仙塩支部研修会が開催されました。今年度は本校が支部会長校であるため、主幹となって企画運営を行い、浅野会長を始め35名の役員と一般会員が参加しました。

開催行事の後、泉高校、仙台青陵中等教育学校よりPTA活動について話題提供していただき、研究協議が行われました。両校とも活動に工夫を凝らしており、大変参考になる協議でした。

次に、「夢～無限大」という演題で、参議院議員であり元プロ野球選手の石井浩郎氏と3校(仙台南高校、仙台高校、仙台三高)のPTA会長による記念対談が行われました。

石井氏がいかにか野球と学業を両立させ、早稲田大学に進学されるに至ったかというお話は、部活動に打ち込む子供を持つ親達にとって、とても心強い励ましとなりました。

また、プロ野球選手時代のエピソードも随所に盛り込まれ、かつて野球少年だった(?)多くの参加者の興味と笑いを誘っていました。

国会議員というお立場で「もっとスポーツで夢を持って国にしたい」と熱く語られていた姿勢がとても印象的でした。

石井氏の国会スケジュールにより、約30分遅れで始まった対談でしたが、最後は会場からの大きな拍手で締めくくられ、とても楽しく充実した研修会となりました。



三高思い出あれこれ

仙台三高教諭 佐藤 純二 (28回生)

私は三高理数科が1クラスだった最後の年の生徒でした。当時の理数科は隔離されているかのように日当たりの悪い別棟に教室があり、そこで3年過ごしました。別棟の前に理数科専用の味のある便所がありまして尚志庵も階段を降りてすぐにあったので普通科の生徒と会うことはほとんどありませんでした。学校行事の際に見たこともない異色のクラスが異常に盛り上がりそれを冷めた目で見ているということが多かったのを覚えています。今でも理数科は伝統を引き継いでいるのを見て懐かしく思いました。理数科はそうでなくてはいけません。何せ「普通」ではないのですから。ちなみに私は今、社会科の教諭をやっています。理数科の授業で覚えていることは…「山月記」の虎に国語の先生が似ていたこと、地理の授業で「お前は草野球のキャッチャーだな」と深いダジャレを言われたこと、担任の先生が学生時代に隣の部屋の麻雀の音がうるさいので注意していたら麻雀を覚えてしまったというウソのような話。授業の内容は覚えていないけど先生の人柄はよく覚えているものだなとあらためて思いました。



う三高!



3年1組



私は仙台三高での三年間で得た経験は、他校では決して得ることが叶わなかっただろうと感じます。理数科の仲間は個性的な面々で、その独創的な発想には何度も驚かされました。SSH活動では、興味ある分野を開拓し、将来の目標を得ることができました。これらの経験が得られた高校生活は、大きな意義のあるものと思います。

佐藤 駿介



3年2組



学校生活では、勉強とは一見関係のない活動も多くありました。しかし、部活動や課題研究、学校行事などは、苦労とともにそれに見合った充実感がありました。そこで得た経験や考え方が必ず人生のどこかで役立ちます。勉強以外の活動は決して無駄ではなかったと思っています。

千葉 汀



3年3組



部活や勉強を通して自分を見つめ直すことの多い三年間だった。よく頭を悩ませては、結局やれることをやるしかないという割り切った。

度々言われてきた「三高生の自覚ある行動」を果たせたかどうかは分からないが、ただ、今はやり切ったことに満足するばかりである。

この三年間で関った全ての人に感謝したいと思う。

佐藤 拓実



3年4組



厳しい歌唱指導に涙を流した日からもう3年。4組は明るく楽しいクラスで体育祭で総合優勝することもできました。文武両道という厚い壁に阻まれてもクラスみんなで乗り越えてきました。これからの行き先は違えど、この素晴らしい仲間と過ごした日々は変わりません。培ってきた三高魂でどんな壁も乗り越えて行きます。

塚本 遥平

ありがとう



仙台三高で過ごした三年間は毎日が充実してあってあっという間に過ぎてしまったように感じます。部活と勉強の両立や係活動など、大変なことはたくさんありましたが、それらの一つ一つが思い出になりました。三高で得た貴重な三年間の経験を活かして飛躍できるようにこの先も頑張っていきたいです。

渡邊 直樹

3年5組



私たち三年六組は、正直体育祭では弱く、成績も文系ピリですが、一番居心地のいいクラスです。もめごとはほとんどなく、男女の仲もいいです。ただ無駄に地元アピールをする人が多いです(笑)。富谷が「市」になったことやガッキーの恋ダンスで盛り上げられる平和で明るい六組はとても楽しかったです。みんなありがとう。

灰野 彩夏

3年6組



高校生活最後の一年、三年七組で過ごした時間はとても有意義なものでした。一致団結して取り組んだ学校行事では体育祭総合三位、文化祭クラスパフォーマンス一位と、心に残る思い出がたくさん作れました。受験勉強も互いを励ましながら最後までやりきれたと思います。三高で得た経験を糧にして、今後も頑張りたいです。

大信田正陽

3年7組



私達三年八組は野球部監督の佐々木久善先生率いる下、綱引き大会優勝、体育大会総合二位などと、多くの成績を残してきました。また、英語の平均点も抜群に高く、まさに文武両道なクラスです。「受験じゃない年にこのクラスになりたかった。」と皆口を揃えて言うほど楽しく、高校最後のクラスが八組で本当に良かったです!!

佐々木理子

3年8組



前期体育大会

2016.7. 15(金)・16(土)

～種目～

- ・バレーボール・サッカー・ドッジボール
- ・バスケットボール・ソフトボール



総合優勝 3-4



後期体育大会

2016.10. 18(火)

～種目～

- ・100m 400m 1000m 1500m 100mH
- ・リレー・三人三脚リレー・走り高跳び・走り幅跳び
- ・砲丸投げ・メディシンボール投げ・綱引き
- ・長縄跳び・部対抗リレー・女子ダンス





アモーレ三高

今年は三高に浮気して♡

三高祭実行委員長 櫻井 優真
アモーレ三高は今年も三高に浮気して♡というテーマのもとで、今年の三高祭は始動しました。このテーマには、他校の文化祭よりも三高祭に来て、三高の魅力を感じてもらいたいという思いを込めました。そのテーマの実現のため、今年も仙台のアークード街でPR行進を行いました。多くの商店街の人々や、参加してくれた生徒の協力でもPR行進を行うことができ、PR行進の効果もあつて例年よりも多くの方々に三高祭に参加していただきました。また、今年も数年前に、ファイヤーストームを復活させました。例年と違い、外で火を囲んで行なうストームは例年以上に盛り上がったのではないかと思います。各部活、クラスの出店、クラスパフォーマンス、中夜祭など、どれも例年以上のものになったのではないかと思います。

この今年の三高祭が、三高生はもちろん、先生方、保護者の方々、地域の方々など三高祭に関わってくださった全ての人にとって、三高をより好きになり、アモーレになる機会となったならば、私たち文化祭実行委員にとってもこれ以上の喜びはありません。

最後になりますが、三高祭に関わっていただいた全ての人のおかげで、今年の三高祭も大成功しました。ご協力、さらに三高祭を笑顔で楽しんでいただき、本当にありがとうございました。

校外研修(1学年) + 修学旅行(2学年)

第1学年校外研修 (10/25・火曜日)

	主な行き先	行程
1組	松島方面	奥松島(刺し網漁)→キリンピアポート(昼食)→うみの杜水族館
2組	山形方面	上山チェリーランド(ラフランス狩り)→焼き肉くろぬま→山寺・作並
3組	山形方面	リナワールド(体験学習含む)→ピザ(体験学習)
4組	山形方面	上山チェリーランド(ブドウ狩り)→昼食(各自)→リナワールド
5組	仙台方面	うみの杜水族館→杜のアグリエ(昼食)→みちのく杜の湖畔公園
6組	仙台方面	八木山ベニーランド→キリンピアポート(昼食)→うみの杜水族館
7組	福島方面	耶麻郡北塩原村(菅原湖)→パーベキュー
8組	仙台方面	うみの杜水族館→杜の市場(昼食)→コロナワールド



秋保森林スポーツ公園にて

第2学年 修学旅行 (12/1・木曜日、2・金曜日)

	行程
1日目	仙台駅新幹線出発 — 上野着 — クラス別研修 (東京ドームシティ、アメ横、浅草周辺) — ホテル着 — 大学体感プログラム (東京大学構内見学、クラス写真撮影) — 夕食 — O.Bによる講演 — 入浴・就寝
2日目	朝食・移動開始 — 班別研修 (東京近郊、大学研究室・企業など) — 上野駅集合・出発 — 仙台駅着



東大赤門前にて

卒業おめでとうございます 三年間の思い出

「宝物になった三年間」

第三学年委員長 長岡せい子



52回生ならびに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

三年間は、あっという間でした。入学時は、まだ幼さも感じられたのが遅く成長した姿に胸が熱くなります。

私も、入学と同時にPTA活動に携わることになり、ワクワクしたのを思い出します。子供達と一緒にですね。子供達は勉強、部活そして高校生の今だから出来ることに夢中になり、楽しみ学ぶ時間を過ごせたと思います。三高での三年間は、息子にとっても私にとっても、人、時間が宝物です。

子供達が遅く成長できたのも、先生方の溢れる情熱と愛情のおかげです。本当にありがとうございました。

春からは、新しい人生へのスタートとなるのですが、三高での三年間が役立ち、心の支えになるのは、間違いないと思っております。新しい目標へは、「夢は葉、諦めは毒」の精神でチャレンジし続けて行って欲しいのです。三高の卒業生には「心に逞しい筋肉」がついているのですから。

三高卒業生の人生が、素晴らしい輝くことを信じて、いつまでも応援し続けて行きます。最後になりましたが、役員活動にご理解ご協力頂きました、職員、保護者の皆様ありがとうございました。

委員の皆様には、助け支えて頂きありがとうございました。一生の宝物です。

「謝意」

学年主任 伊東 秀輝



五十二回生の保護者の皆様、お子様方のご卒業誠におめでとうございました。

この紙面をお借りして、三年間の教育活動に対するご支援、ご協力に心より御礼申し上げます。

入学時にはまだまだ幼さが残る生徒たちに、ことあるごとに「三高生」に早くならないと語りかけてきました。生徒たちは「三高生」になるとはどのようなことなのか分からなかったと思います。しかし、日々の学習、部活動、生徒会活動等に全力で向き合う中で自然と「三高生」になっていき、この三年ですっかり遅くなりました。

「むすこが たどたどしい手つきで／新しいカミソリを使っている／初めておとなに変装するので／儀式かなんぞのように両肘を張って／気むずかしく脇目もふりません／こめかみに 小鳥の舌ほどの血が／拭いても拭いても垂れるので／ちよつと びっくりりしています／彼の内部で何が傷ついたのでしょう／はだかの背が 皮のむけた樹の幹みたいにな／まぶしく濡れています／むすこには聞こえないようですが／その若い幹のあたりで／小鳥たちがいつせいに さえずっています／彼には見えないようですが／鏡の中では潮がうねっています」(安西均「新しい刃」)

五十二回生はこの学び舎を巣立ち、自力で大きな一歩を踏み出そうとしています。保護者の皆様方におかれましては、今後とも厳しくも温かい目で子どもたちを見守って頂きたいと存じます。五十二回生のより一層の活躍と保護者の皆様のご多幸を祈念致しております。

平成28年度尚志会表彰

功績賞 (3名)

- 小山 薫
平成26・27年度インターハイ出場 (1・2年)
- 門口 尚広
世界最大の科学コンテスト「インテル国際学生科学技術フェア」において日本代表として派遣され、優秀賞3等を受賞した
- 岩間 公希
アジア地域における中高生のアイデアコンテスト 'Global Link Singapore'において口頭部門Best Presentation Awardを獲得した。

功労賞 (46名)

- | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|----------|
| 渋谷 毅 | 悠太 篤志 | 黒川 石田 | 直樹 健人 | 橋本 櫻井 | 悠奈 優真 | 依真 華依 | 佐藤 紺野 | 拓実 彩夏 | 千葉 渡邊 | 汀主 基巧 | 徳田 佐々木 | 千紘 太一 |
| 長南 島津 | 百香 叡作 | 小野 鈴木 | 寺海 日向子 | 佐藤 中山 | 依史 貴史 | 依史 貴史 | 岡田 羽田 | 敦志 拓巳 | 池田 新沼 | 奈央 蒼輝 | 遠藤 吉田 | 大河 洵 |
| 蜂谷 桐生 | 瑞希 飛鳥 | 渋谷 菊池 | 知朗 青空 | 金子 萌々花 | 花乃 飯澤 | 理乃 土屋 | 野竜 大橋 | 平 雄一 | 武田 遠藤 | 理澄 伊藤 | 須藤 平間啓太郎 | 妃奈 佐々木 隼 |
| 松山 杉野 | 新 聖 | 内構 中田 | 友理 絵梨佳 | 友理 絵梨佳 |

編集後記



- | | | | |
|----------|----------|----------|------------|
| 一年 加藤あつ子 | 二年 慶長 知子 | 三年 伊藤 香織 | 広報委員 木暮美智子 |
| 加藤あつ子 | 熊谷まゆみ | 石垣 広子 | 利恵子 |
| 神坪由紀子 | 七尾 千絵 | 中里佐智代 | 菅井 淳子 |
| 吉澤 尚美 | 知美 | 富田 朋子 | |

PTA会員の皆様、いつも広報活動にご協力を賜りありがとうございます。三年生が卒業を迎えるこの時期に春色の後期広報誌をお届けします。本誌は、皆様に「仙台三高生の頑張りや輝き」を感じていただけるようお願いを込めて16名の広報委員が全力で作成いたしました。新しい春に向かってキラキラ輝く三高生と保護者の皆様へのメッセージが散りばめられております。どうぞご覧ください。最後になりますが、ご寄稿を賜りました先生方はじめ関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

(委員長 中里)

平成28年度皆勤賞受賞者 3年間皆勤 (34名)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1組 黒川 直樹 | 本多 杏佳 | 根井真心子 |
| 庄子 水渡 | 4組 石垣 雅生 | 早坂江莉果 |
| 関 竜玖 | 小池 優平 | 7組 鈴木 健矢 |
| 藤原 蓮 | 佐藤 亮太 | 平間啓太郎 |
| 徳田 千紘 | 高橋 優輝 | 泉屋 咲月 |
| 2組 青木 雄一 | 吉岡 里奈 | 橋本 希美 |
| 郷古麟太郎 | 5組 高橋 充 | 8組 遠藤 舜介 |
| 3組 桐生 飛鳥 | 戸嶋 瑛大 | 小山 薫 |
| 木暮 聖成 | 6組 浅見 茉那 | 工藤優里奈 |
| 芳賀健一郎 | 犬飼 真子 | 千葉 理瑚 |
| 米谷 知樹 | 高橋明日香 | |
| 立花 琴梨 | 中田絵梨佳 | |